

議題（2）

岡山市立図書館整備計画（素案）

令和7年 月策定

岡山市教育委員会

## 目 次

1	整備計画策定の趣旨	1
2	岡山市立図書館の施設とサービスの現状と課題	2
(1)	施設等の状況	2
(2)	施設に関連するサービスの状況	4
(3)	施設とサービスの指標	8
(4)	施設とサービスの課題	9
3	整備計画の考え方	10
(1)	関連法規や本市の計画上の位置づけ	10
(2)	公共施設等マネジメントの方針	10
4	整備計画の基本方針と今後の方向性	11
(1)	整備の基本方針	
(2)	今後の方向性	
ア	既存施設の機能向上と長寿命化	11
イ	ソフト事業による図書館サービス	13
ウ	複合化・多機能化に向けての検討	14

【参考資料】政令市の図書館比較（令和4年度）

## 1 整備計画策定の趣旨

岡山市教育委員会では、昭和 57 年に策定、平成 6 年 11 月に改定した「岡山市立図書館整備基本計画」（以下「基本計画」とします。）において、「すべての地域に図書館サービスが行き届くこと」を基本方針に据えた上で、当面の方向として、基幹となる地区図書館を整備する方針を示しました。

この計画を具体化するために、平成 9 年 6 月に「岡山市立図書館整備実施計画」を策定し、長期的な建設計画を立てるとともに、立地や機能など計画を推進する事項をまとめました。

その後、厳しい財政状況や情報化の進展等を背景として、平成 14 年 5 月に「岡山市立図書館整備実施計画」を改訂し、建設計画及び情報化について見直しを行いました（改訂後の計画を以下「実施計画」とします。）。これにより、長期的な建設計画は一旦停止し、短期的な計画を順次積み重ねて策定し、その都度財政状況や内容について十分検討しながら整備を行うものとなりました。また、当面の建設計画として、東部地区の基幹となる地区図書館の具体的な建設計画に着手することとしました。

しかし、県が平成 16 年 9 月に新たな岡山県立図書館を移転開館し、本市では平成 17 年 3 月に御津郡御津町、児島郡灘崎町と合併、平成 19 年 1 月は御津郡建部町、赤磐郡瀬戸町との合併により市域が拡大し、合併地区から引き継いだ図書館が 4 館増えるなど、図書館整備を進める上で大きな状況変化が生じたこと、また、近年の情報技術の発展は、図書館の機能、運営面に大きな変革を与えていることから、図書館整備に係る計画については様々な状況の変化に対応したものにする必要があります。

岡山市の図書館では図書館サービスの充実を図るため、これまで開館日数、開館時間の延長やインターネット予約サービスの導入・拡大、ふれあいセンター情報コーナーとの連携、公民館でのインターネット予約図書の受取、岡山連携中枢都市圏の市町との図書館相互利用の開始・拡大などに取り組んできました。これらの施策の効果が一定程度見えてきたこと、これらの施策は施設のあり方とも密接に関係があることから、その内容を踏まえて、基本計画と実施計画はソフト事業による図書館サービスも含めた整備計画へ見直すこととし、今後は、岡山市立図書館の企画・運営、ソフト事業、施設整備を総合的かつ一体的に展開することですべての地域に図書館サービスが行き届くよう新しい時代の図書館に向けた取り組みを推進していくこととします。

## 2 岡山市立図書館の施設とサービスの現状と課題

整備にかかる計画の見直しを行うにあたり、岡山市立図書館の置かれている現状を、平成 14 年以降の状況の変化を中心に概観します。

### (1) 施設等の状況

平成 14 年 5 月の整備実施計画改訂後、合併により御津図書館、灘崎図書館、建部町図書館、瀬戸町図書館の 4 館を設置しています。また、西大寺図書館の廃止及び西大寺緑花公園緑の図書室の設置により、岡山市立図書館の施設は、以下のとおり、現在 10 館体制となっています。

岡山市立図書館の施設一覧

	延床面積 (㎡)	建築年	大規模 改修等	構造	施設形態	蔵書冊数 (冊)
中央図書館	6,415.49	昭和 58	長寿命化 (令和 3)	鉄筋 C 造	視聴覚ライブラリー を併設	989,352
幸町図書館	2,599.29	平成 4	—	鉄筋鉄骨 C 造	西川アイプラザに 併設	203,564
浦安総合公園図書館	692.00	昭和 57	耐震改修 (平成 31)	鉄筋鉄骨 C 造	総合文化体育館に 併設	72,159
足守図書館	39.45	昭和 50	耐震改修 (平成 30)	鉄筋 C 造	足守公民館に併設	13,760
伊島図書館	66.40	平成 6	—	木造	京山公民館に併設	26,526
建部町図書館	457.82	昭和 56	移転改築 (平成 30)	鉄筋 C 造	北区北保健センター 建部分館と併設	25,855
御津図書館	472.21	昭和 62	—	鉄骨造	御津公民館に併設	35,242
瀬戸町図書館	731.59	昭和 59	長寿命化 (令和 1.2.3)	鉄筋 C 造	単独施設	32,483
灘崎図書館	503.00	平成 6	—	鉄筋鉄骨 C 造	灘崎文化センターに 併設	52,325
西大寺緑花公園 緑の図書室	801.00	平成 22	—	鉄筋 C 造	百花プラザに併設	92,173

※蔵書冊数は令和 6 年 3 月末現在の図書と視聴覚資料の合計。

※瀬戸町図書館は、図書館としての建築年を記載。建物の躯体は、昭和 38 年築の備前瀬戸郵便局が前身。

図書館以外のサービスポイント（岡山市立図書館の本を借りることができる場所）としては、移動図書館、公民館図書コーナー、ふれあいセンター情報コーナーがあります。





移動図書館は、図書館から離れた地域や重度身体障害者等に毎月 1 回巡回し、本の貸出等を行っています。

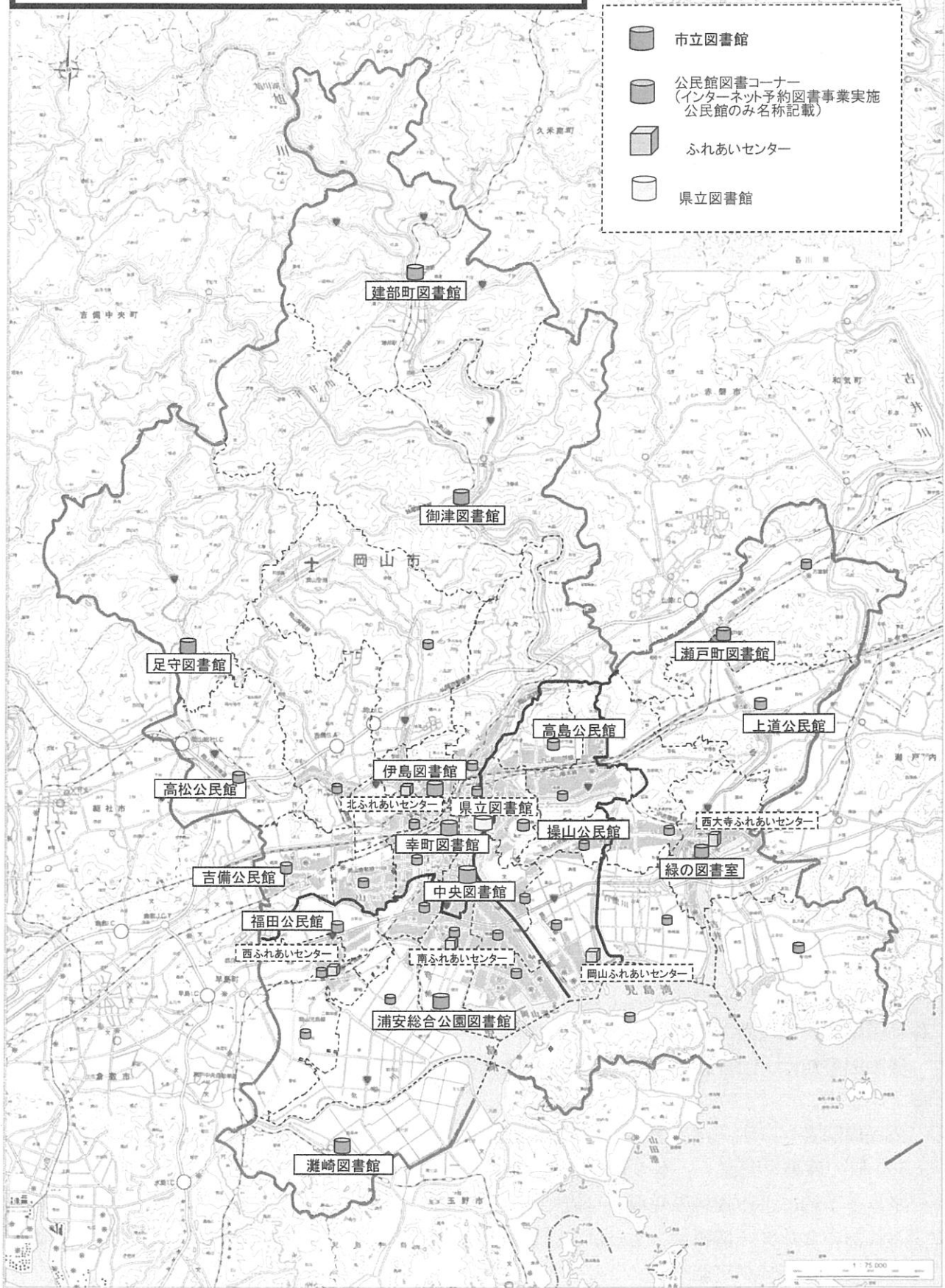
公民館図書コーナーは、図書館が併設又は近隣に所在する公民館を除く公民館 29 館に平均約 5,500 冊の蔵書を配置し、本の貸出等を行っています。一部の公民館図書コーナーでは、インターネット予約による資料の受取が可能です。

ふれあいセンター情報コーナーは、図書館と連携しており、全てのふれあいセンターで図書館資料の受取・返却が可能です。

これらのサービスポイントの配置は、次ページの配置図のとおりです。なお、移動図書館の巡回場所は省略しています。

# 岡山市立図書館及び図書サービス提供施設の配置図

-  市立図書館
-  公民館図書コーナー  
(インターネット予約図書事業実施  
公民館のみ名称記載)
-  ふれあいセンター
-  県立図書館



《参考》岡山市立以外の図書館の状況

岡山市内の県立図書館・大学図書館の施設一覧

	住所	一般利用の制限	蔵書冊数
岡山県立図書館	北区丸の内二丁目		1,623,783
岡山大学附属図書館	北区津島中三丁目外	18歳以上（高校生除く）	1,971,528
ノートルダム清心女子大学附属図書館	北区伊福町二丁目	利用には事前に問合せ必要	369,839
岡山理科大学図書館	北区理大町		373,373
岡山商科大学附属図書館	北区津島京町二丁目		372,733
就実大学・就実短期大学附属図書館	中区西川原一丁目	大学生以上 閲覧のみ可	370,000
山陽学園大学図書館	中区平井一丁目	大学生以上 貸出は公立図書館を通じて可	170,000
中国学園図書館	北区庭瀬	高校生以上	135,492
環太平洋大学附属図書館	東区瀬戸町観音寺		91,000

(2) 施設に関連するサービスの状況

他施設との連携等のソフト事業により、多様な図書館利用の選択肢が生まれ、利用環境や利便性の向上につながっています。

① インターネット予約の拡大

平成16年12月からインターネット予約を開始し、当初は対象資料を貸出中の図書のみとしていましたが、平成22年9月からは在庫の資料及び雑誌・視聴覚資料も対象としました。

平成16年度に329,200件だった予約件数は、平成28年度から高松公民館、福田公民館、高島公民館でインターネット予約図書事業を開始したことにより、平成29年度には921,597件（約2.8倍）、平成31年3月から吉備公民館、操山公民館、令和4年10月から上道公民館でも開始し、令和5年度には1,014,193件（約3.1倍）になっており、そのうちインターネット予約が812,703件と8割以上を占めています。

貸出冊数と予約件数の推移(H14-R5)

	貸出冊数 (冊)	予約件数 (件)	うちインターネット 予約(件)	貸出に占める インターネット予約 の割合(%)	備考
平成14年度	4,070,314	329,979	—	—	
平成15年度	4,133,522	342,549	—	—	
平成16年度	3,831,302	329,200	10,066	0.3	9月 県立図書館開館 12月 インターネット予約開始 3月 合併により御津図書館・ 灘崎図書館設置
平成17年度	3,830,108	352,818	47,046	1.2	
平成18年度	3,894,157	366,722	58,795	1.5	1月 合併により建部町図書館・ 瀬戸町図書館設置
平成19年度	3,960,645	404,683	71,475	1.8	
平成20年度	4,093,374	461,382	92,499	2.3	
平成21年度	4,226,253	509,508	111,610	2.6	11月 岡山ふれあいセンターと 連携
平成22年度	4,432,931	603,068	205,165	4.6	4月 西大寺緑花公園緑の図書 室移転開室 4月 ふれあいセンター全館と 連携
平成23年度	4,367,313	621,510	251,581	5.8	
平成24年度	4,382,602	759,594	409,060	9.3	

	貸出冊数 (冊)	予約件数 (件)	うちインターネット 予約 (件)	貸出に占める インターネット予約 の割合 (%)	備考
平成 25 年度	4,288,157	802,802	458,376	10.7	
平成 26 年度	4,347,331	853,437	503,803	11.6	4月 中央図書館開館日拡大
平成 27 年度	4,418,889	910,800	557,068	12.6	
平成 28 年度	4,377,505	925,840	583,431	13.3	4月 緑の図書室開館日拡大 7月 インターネット予約受取 開始 (高松・福田公民館) 10月 インターネット予約受取 開始 (高島公民館)
平成 29 年度	4,306,495	921,597	591,974	13.7	11月 連携中枢都市圏図書館相 互利用開始
平成 30 年度	4,095,944	889,795	585,659	14.3	3月 インターネット予約受取 開始 (吉備・操山公民館)
令和元年度	4,137,368	860,434	627,511	15.2	
令和 2 年度	3,808,889	940,709	730,469	19.2	
令和 3 年度	3,205,447	1,074,490	872,665	27.2	
令和 4 年度	3,818,033	1,033,333	824,346	21.6	10月 インターネット予約受取 開始 (上道公民館)
令和 5 年度	3,811,017	1,014,193	812,703	21.3	

インターネット予約図書事業は、図書館から離れた地域への図書館サービスの推進策として実施しており、貸出のべ人数、貸出冊数、予約件数はいずれの実施公民館でも大幅に増加しており、親子連れや学生の来館者が増える等大きな効果が認められます。

インターネット予約図書事業実施前後の利用状況の変化

公民館名 (事業開始)	貸出のべ人数 (人)			貸出冊数 (冊)			予約件数 (件)		
	開始前年	開始翌年	現在 (R5)	開始前年	開始翌年	現在 (R5)	開始前年	開始翌年	現在 (R5)
高松公民館[北区] (H28.7.21-)	1,674	3,313 (198%)	5,970 (180%)	4,929	9,424 (192%)	22,689 (241%)	691	3,247 (469%)	12,622 (389%)
福田公民館[南区] (H28.7.21-)	1,880	3,267 (182%)	5,962 (182%)	6,551	9,841 (150%)	21,132 (215%)	1,011	4,432 (438%)	12,110 (273%)
高島公民館[中区] (H28.10.20-)	2,524	4,600 (153%)	9,711 (211%)	7,856	14,555 (150%)	40,992 (282%)	1,297	5,724 (441%)	22,769 (398%)
吉備公民館[北区] (H31.3.8-)	8,480	11,711 (153%)	14,701 (126%)	30,334	45,398 (152%)	58,979 (130%)	911	10,902 (590%)	24,908 (228%)
操山公民館[中区] (H31.3.8-)	10,426	11,391 (109%)	11,965 (105%)	37,774	45,156 (120%)	45,953 (102%)	471	9,165 (1,946%)	15,905 (174%)
上道公民館[東区] (R4.10.13-)	1,218	4,506 (370%)		4,316	14,689 (340%)		119	3,700 (3,109%)	

※いずれも年度途中の事業開始のため、事業開始前年度と事業開始後翌年度事業実施した年度で比較。

※パーセンテージの現在 (R5) は、事業開始翌年度と令和 5 年度を比較。

## ② ふれあいセンターとの連携

平成 21 年 11 月から、岡山ふれあいセンターとの連携を開始し、相互返却及び予約図書の受取が可能となりました。平成 22 年 4 月からは、この連携をふれあいセンター全館に拡大しました。

ふれあいセンター情報コーナーにおける市立図書館所蔵資料の利用状況

	貸出のべ人数（人）		貸出冊数（冊）	
	平成22年度	令和5年度	平成22年度	令和5年度
岡山ふれあいセンター	556	847	842	1,784
北ふれあいセンター	198	632	364	1,253
西ふれあいセンター	272	721	394	1,106
南ふれあいセンター	129	451	163	601
西大寺ふれあいセンター	97	20	169	29
ふれあいセンター計	1,252	2,376	1,932	4,773

※上記統計は市立図書館の所蔵資料のみの利用状況であり、ふれあいセンターの所蔵資料の利用については含まず。

### ③ 西大寺緑花公園緑の図書室の移転開室

平成22年4月に設置された西大寺緑花公園緑の図書室は、旧西大寺図書館よりも貸出冊数だけでなく貸出実人数も大幅に増加するなど、非常に活発に利用されており、実質的に地区図書館としての機能を果たしています。

延床面積の拡大に伴い、以前よりも蔵書を充実させることができたこと、公園やスーパーなど生活関連施設が近隣に所在することによって、立ち寄りやすさが向上したこと等により、サービス利用圏域が拡大したと考えられます。

旧西大寺図書館（平成20年度）と西大寺緑花公園緑の図書室（令和5年度）の比較

	延床面積	蔵書冊数	貸出実人数	貸出のべ人数	貸出冊数
平成20年度	274㎡	50,266冊	6,170人	51,568人	334,877冊
令和5年度	801㎡ (292%)	92,173冊 (183%)	6,653人 (107%)	80,924人 (157%)	522,178冊 (156%)

※貸出実人数は、年度内に1回以上本等を借りた実人数。

※平成21年度は移転のための休館があったため、平成20年度と比較。

### ④ 開館日の拡大

中央図書館では、平成25年度まで政令市で年間開館日数が最も少なかったですが、平成26年度から第2日曜日、祝日を開館し、年間開館日数は政令市の中位となっています。また、西大寺緑花公園緑の図書室では、平成28年度から第2日曜日を開館し、開館日数を増加させています。

### ⑤ 岡山連携中枢都市圏での図書館相互利用

平成29年11月から、岡山連携中枢都市圏の5市4町（岡山市、玉野市、備前市、赤磐市、真庭市、和気町、早島町、美咲町、吉備中央町）の図書館での相互利用を開始しました。平成30年10月からは瀬戸内市、平成31年4月からは津山市、令和3年4月からは久米南町も参加しています。

岡山市民は赤磐市立、早島町立、瀬戸内市立、玉野市立図書館の利用が比較的多く、相互利用の図書館に近接する地域等の市民の利便性向上につながっています。



図書館相互利用における岡山市民の利用状況（令和5年度）

図書館の所在する自治体	津山市	玉野市	備前市	瀬戸内市	赤磐市	真庭市	和気町	早島町	久米南町	美咲町	吉備中央町
貸出のべ人数(人)	204	1,399	33	1,981	5,170	289	177	2,658	719	168	115
貸出冊数(冊)	588	4,723	138	10,482	28,797	1,481	907	14,000	5,241	653	404

### ⑥ 岡山県立図書館との連携

平成16年9月に開館した岡山県立図書館は、14年連続で入館者数・個人貸出冊数が都道府県立図書館の中で一位となるなど非常に活発に利用されています。なお、岡山県立図書館の来館者の8割以上を岡山市民が占めています。（※県立図書館の来館者アンケート調査による。）

資料や調査相談内容によって、互いの図書館を利用者に紹介するほか、平成15年9月に開始された、県立図書館のインターネット予約資料を県内他の市町村立図書館で受取できるサービスに岡山市立図書館各館（※伊島図書館は除く）も参加し、令和5年8月からは一部の市立図書館の窓口で県立図書館の利用者カードを発行できるようにするなどの連携を行っています。

岡山市立図書館と岡山県立図書館の主な指標の比較（令和4年度）

	蔵書冊数	個人貸出冊数	レファレンス件数	他自治体図書館への貸出
岡山市立図書館（全館合計）	1,751,569冊	3,818,033冊	29,323件	1,519冊
岡山県立図書館	1,593,968冊	1,228,769冊	67,877件	31,670冊

※蔵書冊数は図書と視聴覚資料の合計。

### ⑦ 相互貸借による他の図書館との連携

岡山市立図書館で所蔵していない本の予約についても取り寄せをして提供しています。岡山県立図書館が新しい県内横断検索サービスを始めて以降、公共図書館だけでなく県内の大学・短大図書館からの取り寄せが可能になりました。

相互貸借による県内図書館からの取り寄せ（令和5年度）

（冊）

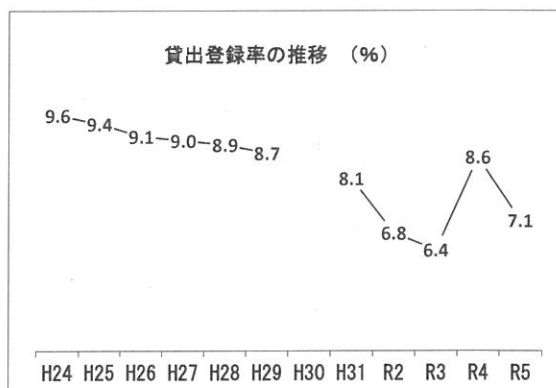
	中央図書館	幸町図書館	瀬安総合公園図書館	建部町図書館	御津図書館	灘崎図書館	瀬戸町図書館	西大寺緑花公園緑の図書室
岡山県立図書館から	312	211	126	4	51	11	37	219
岡山県内の大学図書館から	10	2	5	1	1	0	0	5
岡山県内の公共図書館から	145	152	39	2	53	24	11	77

※伊島図書館分は中央図書館に含む。足守図書館では現時点では相互貸借は未実施。

### (3) 施設とサービスの指標

#### ① 貸出登録率

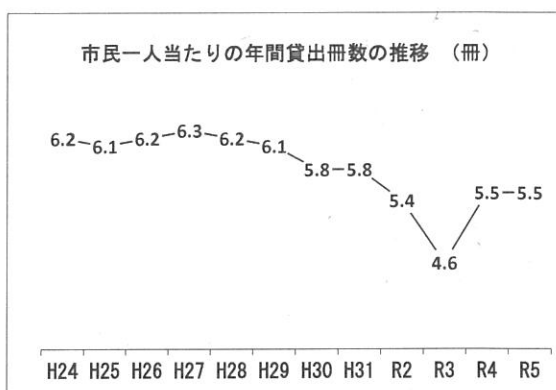
貸出登録率（年度内に1回以上図書館（公民館図書コーナー等を含む）で本等を借りた貸出実人数を人口で割ったもの）は、コンピュータシステムの入替の前後で統計の比較が難しい面がありますが、全体的に減少傾向にあります。



※平成 30 年度はコンピュータシステム入れ替えのため、正確な把握が不可能。

#### ② 市民一人当たりの年間貸出冊数

市民一人当たりの年間貸出冊数は、平成 14 年度から横ばいで推移していたが、平成 30 年度ごろから若干減少がみられ、新型コロナウイルス感染症による休館等の影響、中央図書館の長寿命化工事に伴う閉館の影響による落ち込みから回復しつつあるもののコロナ禍前からの減少傾向は続いています。



#### ③ 他の政令市の図書館との比較

他の政令市の図書館と人口当たりで比較すると、延床面積は中位ですが、蔵書冊数、貸出冊数、予約件数は上位に位置しています。貸出冊数は、他の政令市と同様に近年減少傾向が見られます。

他の政令市との比較（令和 4 年度実績）

	市民千人当たりの延床面積	市民一人当たりの蔵書冊数	市民一人当たりの年間貸出冊数	市民一人当たりの年間予約件数
岡山市	18.3㎡ (10位/20市)	2.6冊 (4位/20市)	5.5冊 (3位/20市)	1.48件 (3位/20市)
政令市平均	18.9㎡	1.8冊	4.0冊	1.08件

※令和 5 年度政令指定都市立図書館長会議資料、各市の住民基本台帳人口（令和 5 年 3 月 31 日付又は 4 月 1 日付）、各市への調査を基に算出。

#### ④ 他の市有施設との比較

岡山市が平成 28 年 3 月～4 月に行った「公共施設等マネジメント岡山市市民意識調査アンケート」において、図書館は、性別・年代・居住地区に関わらず利用頻度が高く、市有施設の中でも日常的に利用されている施設との結果が出ています。

令和 5 年度の岡山市立図書館全体の貸出人数はのべ約 65 万人ですが、本を借りない利用者（閲覧や調べもの、行事参加、施設利用等）を合わせると、さらに多くの人に利用されています。

市有施設の利用状況（「公共施設等マネジメント岡山市市民意識調査アンケート」より）

市民が過去1年間で1回以上利用した施設	①市(区)役所・支所・地域センターなど (53.3%) ②図書館 (37.0%) ③市民会館・シンフォニーホール・市民文化ホールなど (28.1%)
市民が月に1回以上利用した施設	①図書館 (16.4%) ②公民館 (13.5%) ③学校・幼稚園・保育園など (12.2%)

#### (4) 施設とサービスの課題

##### ① 施設の老朽化等への対応

岡山市立図書館10館中5館が築40年を経過しており、計画的な改修・更新の検討が必要です。

中央図書館は、昭和58年の建築後41年経過しており、施設・設備の計画的な維持改修が必要な状況です。また、年々増加する蔵書に合併地区の郷土資料・行政資料等が加わり、蔵書の保存スペースが大幅に不足しています。

瀬戸町図書館は、昭和59年の建築ですが、建物の躯体は昭和38年建築の備前瀬戸郵便局を前身としています。耐震性能は満たしているものの、老朽化し外構などで修繕が必要となる事案がおきています。

なお、その他の8館はいずれも複合施設の一部となっています。

また、移動図書館は、近くに図書館がない地域や高齢者・障害者など図書館の利用が困難な市民に図書館サービスを届ける役割を担っています。移動図書館車については更新のタイミングを勘案しながら安定的な運営を維持する必要があります。

##### ② 図書館サービスの利用促進と環境整備

さまざまな取組により図書館の利用環境や利便性が向上し、市有施設としては非常によく利用されているものの、近年は利用がやや伸び悩んでいます。多様な利用方法を提示することにより、今まで図書館サービスの利用が無い方にサービスを拡大できる可能性があると考えており、将来に向けて、ICTを活用することにより時間や場所の制約を少なくした資料の貸出ができるサービス網を構築することや、インターネットを利用したコンテンツの提供等により、来館することなく自宅に居ながら図書館サービスを利用できる環境整備を構築することは、喫緊の検討課題であると言えます。

また、図書館のサービスには、資料の貸出にとどまらず、個人や地域の課題解決のための学習や研究を支援する役割もあります。郷土資料をデジタルアーカイブ化すること等により、多くの資料をより簡単に閲覧することができる環境整備と活用方法の普及が必要です。

地域に密着し一人ひとりのくらしとまちづくりに役立つ図書館として、これまでのサービス提供方法にとどまらず、ICTを活用するなどして更なる図書館サービスの利用促進と環境整備を図っていく必要があります。

### 3 整備計画の考え方

#### (1) 関連法規や本市の計画上の位置づけ

一方、図書館の法令上の規定や本市の計画上の位置づけは次のようになっています。

図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）において、図書館は、「図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」と定義されています。

また、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成 24 年文部科学省告示第 172 号）において、市町村立図書館の運営の基本として、「知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえ、資料や情報の提供等の利用者及び住民に対する直接的なサービスの実施や、読書活動の振興を担う機関として、また、地域の情報拠点として、利用者及び住民の要望や社会の要請に応え、地域の実情に即した運営に努めるものとする」ことが示されています。

こうしたことを踏まえ、「岡山市第六次総合計画」（平成 29 年 3 月）では、図書館は「市民の主体的な学習を支援する生涯学習の主要な拠点」であり、「市民の学習に必要な図書や情報を収集・保存・提供する」としています。また、「生涯にわたる豊かな学びの充実」を実現し、「誰もがあこがれる充実の『子育て・教育都市』」となることが掲げられています。

整備計画の策定においては、上記のような図書館の機能・役割や利用状況にも十分配慮しつつ公共施設等マネジメントの方針を踏まえることが必要です。

#### (2) 公共施設等マネジメントの方針

岡山市では、今後も進む少子高齢化や確実に向かうと予測される人口減少など、経済・社会情勢等が大きく変化する中、高度成長期に集中的に整備された公共施設等が、今後一斉に老朽化に伴う更新時期を迎え、その安全対策や財政負担の増大が喫緊の課題となっています。このため、長期的な視点で、財政負担の平準化を図り、市民の安全・安心を確保し、必要なサービスを将来にわたって持続的に提供していくことを目的として「岡山市公共施設等総合管理計画」が策定され、公共施設等マネジメントの方針が次のとおりとされています。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 将来世代へ引き継ぐ施設機能の検討と安全安心の確保</li><li>② 施設の複合化・多機能化、総量の適正化及び相互利用の促進</li><li>③ 民間活力の導入による公民連携（PPP）のより一層の推進</li><li>④ 情報公開と地域住民等との情報共有</li></ul> |
|---|

## 4 整備計画の基本方針と今後の方向性

### (1) 整備の基本方針

I C Tの急速な発展は、図書館のサービスにも大きな変化をもたらしており、現物の図書を数多く所蔵し、閲覧、貸出に対応するこれまでの図書館のサービス提供の形態だけでなく、デジタル技術の活用により従来の枠を超えた新たなサービス提供が可能となる時代を迎えております。

電子図書やオーディオブック、デジタルアーカイブなどを充実させ、迅速かつ容易にアクセス可能にすること、利用者が自宅や事務所から図書館の情報にアクセスできるようにすること、他の図書館や情報機関とのネットワークを強化しリソースを共有すること、視覚や聴覚に障害を持つ人々のための情報サポートや多言語サービスの提供により、図書館利用者を拡大することなど、デジタル技術の活用により一層図書館サービスの利便性を向上させることが可能となります。

今後こうした図書館をめぐる環境の変化をとらえ、デジタル技術を活用したソフト主体の図書館整備に力を入れていくことから、これまでの計画で建設するとして東部地区を含む図書館については整備を取りやめることとし、新しい時代にふさわしいサービスを提供できる図書館サービス網を整備していきます。

まずは市内全ての地域にきめ細かく図書館サービスが行き届くよう、デジタル技術を活用して既存図書館のソフト事業を充実させることにより、市民誰もが身近に本に触れられるようにするとともに、本を探しやすくすること、快適な読書空間や情報環境の整備等を進めるなど、可能なところから図書館の魅力を向上させ、持続可能な図書館サービスを提供していくものとします。

これまで岡山市の図書館では、職員一人ひとりが市民ニーズに直接向き合い、創意工夫による改善を積み重ねながら、各図書館等のサービスをネットワーク化し運営することにより、図書館サービスの向上を図ってきました。また、地域に根差した各館での図書館サービスはもちろんのこと、子どもの読書活動の推進での諸取組や移動図書館による障害者家庭配本などのきめ細かい図書館サービスにも力を入れてきました。これまでの努力をさらに積み重ね、地域に密着し、一人ひとりのくらしとまちづくりに役立つ図書館を具現化していくとともに、効果的かつ効率的な図書館運営を行いながら、くらしの中で気軽に利用できる図書館を市民とともにさらに発展させていきます。

今後の図書館運営にあたっては、専門職や資料費を確保して図書館に対する市民の期待に応え、「生涯にわたる豊かな学びの充実」を実現することができるよう、持続可能なかたちで、図書館サービスのより一層の充実を図るため、次に掲げる項目について重点的に取り組みを進めてまいります。

### (2) 今後の方向性

#### ア 既存施設の機能向上と長寿命化

幅広い年齢層の市民に活発に利用されており、今後も継続した利用が見込まれることを踏まえると、図書館の既存施設については、I C Tの積極的導入による機能向上に加え長寿命化対象施設として、適切なメンテナンスを行うことにより利用者の安全安心の確保を行うとともに、市民ニーズの変化に対応した図書館サービスを提供します。

機能向上については、主に以下①～⑥の事項を検討し、可能なところから実施していくものとします。

長寿命化については、以下⑦の計画的な予防保全を基本とし、具体的な計画は「岡山市公共施

設等総合管理計画」の個別施設計画において別途定めるものとします。

#### ① ICT環境の整備

次期図書館システム構築の過程において、運用の見直しも含め資料貸出・予約の効率化・利便性向上や多様性に対応したアクセシブルな資料提供を検討します。

ICT化の急速な進展に対応した調べものためのインターネット端末の整備、ICタグや自動貸出機の導入による待ち時間の短縮、スマホで利用者登録、利用者カードとして利用を可能にするほか、電子書籍の導入、図書館の利用に障害がある方へのサービスに効果的な電子メディアや機器等の充実など、デジタル技術を活用した図書館のサービス向上を検討します。

#### ② 郷土資料のデジタルアーカイブ化

岡山市の所蔵する郷土資料は、市民の財産として後世に残すため収集、保存されてきています。郷土資料をデジタルアーカイブ化することにより、劣化リスクを回避するだけでなく、大学図書館や博物館等との連携も視野に入れ、広範な人々がアクセスして資料を利用し教育的な活用がなされたり、郷土資料がもたらす教訓や歴史的な価値が、広く認識されるよう活用方法を検討します。

#### ③ さまざまなニーズに対応したスペース

さまざまなニーズに対応したスペースを確保することで、より豊かな図書館活動の場とすることができます。

本を読みながらゆったりとくつろぐことのできるスペース、各種行事の開催や図書館関係ボランティアの活動に使用できる多目的ルーム等、他のスペースとのバランスや複合施設内での共有を含めた検討が必要です。

#### ④ バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応

子どもや高齢者、体の不自由な人など誰もが安心・快適に利用できる図書館とするため、バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応を行うことが重要です。「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」における建築物移動等円滑化誘導基準や「岡山市くらしやすい福祉のまちづくり条例」の趣旨に基づき、安全かつ円滑な施設利用を担保することが必要です。

図書館に不慣れな利用者でもサービスを円滑に利用できるよう、施設の案内や表示に配慮することも重要です。たとえば、書架サインや本の背ラベルへの適切な情報の表示、分かりやすい配架や展示等により、本の探しやすさを向上させるとともに、図書館が豊かな本との出会いの場となるよう一層の工夫を行うことが必要です。

#### ⑤ 蔵書の保存スペースの確保

年々増加する蔵書のうち、岡山市の郷土資料や行政資料をはじめとして岡山市立図書館で保存すべき蔵書については、適切な状態で保存し、将来の利用に備えることが重要です。

現在、利用頻度の低い一部の資料は外部の施設に保存していますが、良好な保存環境とは言えず、利便性の面でも問題があります。保存スペースの不足は資料出納業務に支障をきた

すだけでなく、資料収集にも影響を及ぼすことになり、市民サービスや業務効率の低下につながりかねません。

昭和58年の中央図書館の開館後、書庫の一部を電動集密書庫にして収容能力を増加させていますが、今後蔵書がさらに増加することを考えると、書庫の集密化をさらに進める等、有効な解決策を検討していく必要があります。

#### ⑥ 危機管理への対応

日々多くの市民が利用し、また貴重な市民の財産である蔵書を保存する図書館では、危機管理への対応が重要です。さまざまなリスクについて、被害を未然に防ぐとともに、迅速かつスムーズな対応ができるよう準備しておく必要があります。

地震や豪雨災害等の自然災害リスクに対しては、たとえば書架の固定による転倒防止をさらに進める等により来館者の安全を確保することや、蔵書の浸水を防ぐために貴重資料等の保管場所に留意することが必要です。また、人的リスクに対しては、たとえば館内配置の工夫や無断持出防止装置の設置等により適正な資料管理を行うことも必要です。

#### ⑦ 計画的な予防保全

安全安心で快適なサービスを提供するため、長期的視点で、予防保全の考え方にに基づき、施設の維持管理を徹底し、ライフサイクルコストの縮減及び施設の長寿命化を図るとともに、日常的な点検の強化や施設性能の定期的な把握に努めることが重要です。

平成26年度に全庁的に行われた施設劣化調査等によって判明した要修繕箇所のうち、これまで事後保全としての改修や長寿化工事を実施してきていますが、今後も計画的な予防保全を進めていくものとします。

施設全体の管理を図書館が行っている中央図書館、瀬戸町図書館においては、施設・設備の老朽化が進んでおり、市民ニーズの変化に対応した施設機能の向上を含む改修を実施する必要があります。

他の図書館については、複合施設であり、図書館部分の必要な改修等を随時行うとともに、複合施設全体の方針や図書館として求められる機能、課題等に関して、施設の所管元課と情報共有を図り、計画的な改修に向けて連携を密にしていくものとします。

### イ ソフト事業による図書館サービス

公共施設等マネジメントの方針を踏まえた図書館施設・機能のあり方を考えると、持続可能な図書館運営のためには、施設整備とは別に、ソフト事業により施設の効用を高めていくことが重要であることから、今後は主に以下の事項を検討するとともに、市民ニーズに応じた蔵書構築、効果的な情報発信やPR等にこれまで以上に取り組むものとします。

#### ① 公民館図書コーナーとの連携強化

令和3年12月に移転開館した上道公民館やインターネット予約図書事業の実施館では利用が増加しています。上道公民館については、移転開館に際して蔵書の大幅な更新を行ったことも要因として考えられます。インターネット予約図書事業の実施館についても、大幅に蔵書を入れ替え、追加配本を行ったことが利用増の一因と考えられることから、他の公民館においても、蔵書の更新等により環境整備を図っていく必要があります。

ただし、公民館図書コーナーは、図書館と比べて蔵書が少なく、本の貸出・返却、予約受取といった基礎的なサービスに限られていることに留意する必要があります。公民館でのインターネット予約図書受取は、図書館から離れた地域のサービス推進を図るため今後も継続しますが、未実施館ではスペースの確保が困難な館が多いため、運用面や費用対効果を含めた検討が必要です。

なお、インターネット予約図書受取の実施館では、公民館の窓口では対応が難しいさまざまな事例に対応するために、図書館からのバックアップが不可欠であり、より連携を強化していきます。

## ② 市民ニーズに沿った移動図書館の運行

移動図書館は、近くに図書館がない地域や高齢者・障害者など図書館の利用が困難な市民に図書館サービスを届ける役割を担っています。情報化の進展に伴ってインターネット予約等の利便性が向上する一方、こうしたサービスを受取できない人や車等の交通手段を持たない人にとって、移動図書館の必要性はますます高まっています。

アウトリーチによる図書館サービスの提供として、「移動図書館の機動性を生かしたサービスの提供」、「移動図書館による障害者家庭配本」のサービスはニーズに応じたきめ細かいサービスを続けてきており、重度の障害のために図書館への来館が困難な方への家庭配本登録者数は、平成21年度の6人から令和5年度の15人へと拡大しています。また、子どもの読書活動推進も視野に入れ、幼稚園・保育園・認定こども園への巡回を拡充しており、平成21年度の3か所から令和5年度の16か所へと拡大しています。また、近年は市主催のイベントへの参加も増え、図書館や読書活動の広告塔としての役割も果たすようになってきたことから、今後も巡回先の時間帯やルート調整を行い効果的な運行体制を確保するとともに、適時適切な車両更新についても検討していきます。

## ③ 図書館資料の受取・返却窓口等の設置

図書館資料の受取・返却窓口、返却ポスト等の設置により、予約資料受取窓口の拡大や時間外での予約資料の受取を可能とし、市民の利便性向上を図ることも考えられます。

なお、設置にあたっては図書保管スペースの確保や物流経費等が必要となることから、費用対効果を含めた検討が必要です。

## ウ 複合化・多機能化に向けての検討

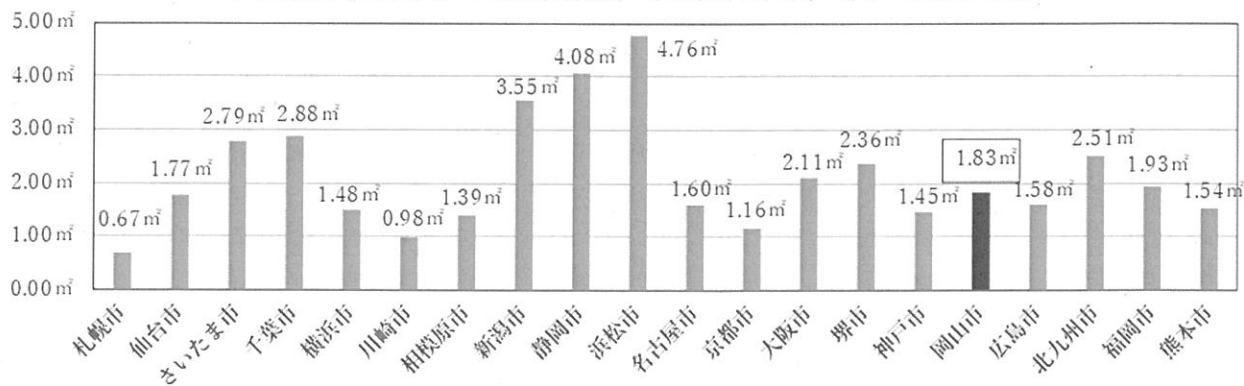
「岡山市公共施設等総合管理計画」では、新規施設整備、施設更新いずれの場合においても、財政負担の低減及び市民サービスの向上の観点から、複合化・多機能化の検討を行うこととされています。

今後の既存施設の整備においては、必要な書架スペースの確保によって図書館の基本機能である資料提供を十分に果たすこと、複合施設・近隣施設との相乗効果によって図書館の魅力を向上させること、複合化によって図書館サービスに支障が出ないように留意すること等を検討していきます。

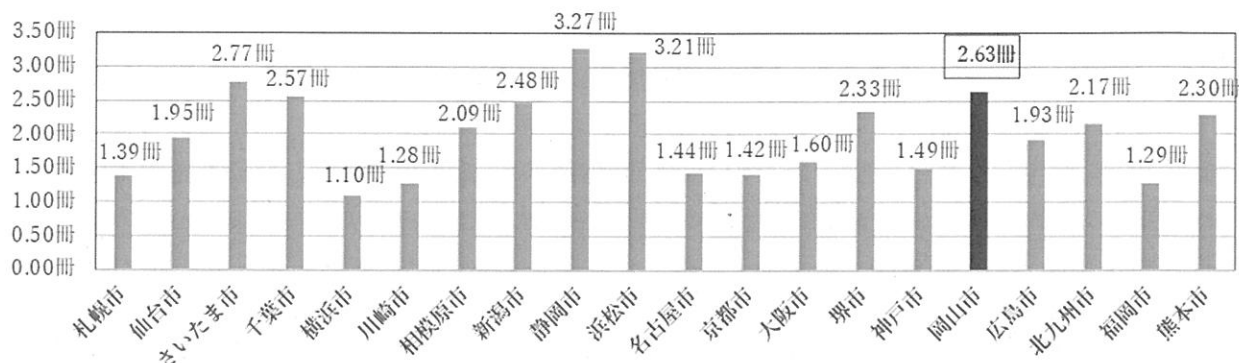


【参考資料】政令市の図書館比較（令和4年度）

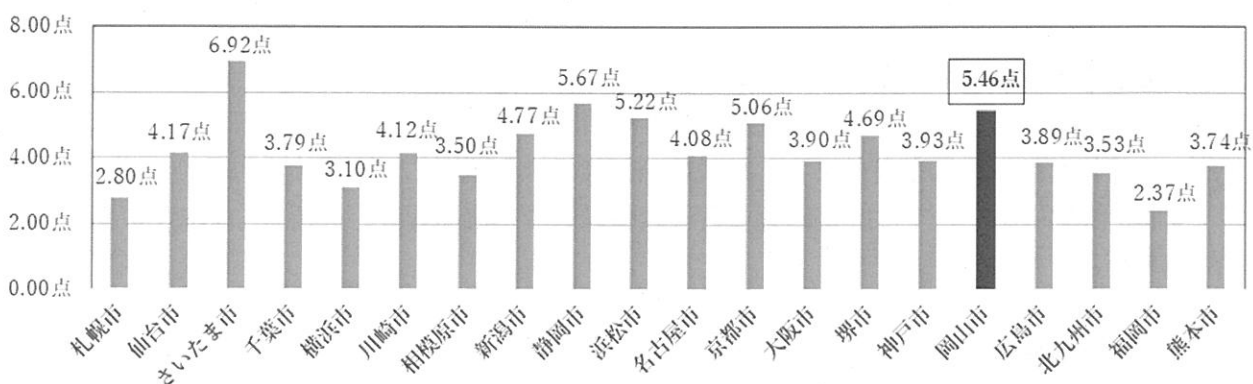
市民百人当たりの延床面積（10位/20市）[平均1.89㎡]



市民一人当たりの蔵書冊数（4位/20市）[平均1.78冊]



市民一人当たりの年間貸出冊数（3位/20市）[平均4.01点]



市民一人当たりの年間予約件数（4位/20市[平均1.08点]

